

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

XI 農民運動

2 主要な農民運動

5 三里塚(成田)空港廃港闘争

二期工事阻止・廃港闘争

千葉県成田市の成田空港建設反対闘争は一九六六年の閣議決定以来、一六年にわたり現地反対農民による三里塚・芝山連合空港反対同盟とこれを支援する千葉動労などの労組、全国の軍事基地・公害反対組織と学生によってつづけられている。八一年九月現在、二期工事予定敷地内反対派農家は一二戸、空港反対運動のシンボリック的存在の一坪運動の地主は約五〇〇人といわれ、空港周辺三七の団結小屋に支援学生など常駐者約一〇〇人とともに廃港闘争を展開している。このため成田空港は七八年五月にA滑走路のみの欠陥空港として開港したものの、いぜんとしてB・C滑走路のための二期工事建設のめどもたたず、しかも空港内外は厳戒体制下におかれ異常な情勢にある。航空燃料輸送のための本格パイプラインの建設工事も進行中であるとはいえ遅延に遅延をかさね、現在なお、暫定的に列車で輸送している状態である。

三里塚・芝山連合空港反対同盟は八一年一〇月一日、千葉県成田市の三里塚第一公園で「二期工事着工阻止全国総決起集会」を開催した。集会に反対派農民など一万一五〇〇人(千葉県警調べ六二六〇人)が結集、農家切り崩し工作と八二年に予想される二期工事の断固粉碎を確認し、集会後、空港南側周辺約四キロをデモ、同時に古タイヤを燃やして反対闘争を盛りあげた。この日、千葉県警は機動隊員九〇〇〇人を動員、警戒体制をとった。

空港廃港闘争と国際的連帯

反対派同盟は成田空港の開港を延期させた管制塔襲撃事件(七八年三月二六日)の四周年を記念し、八二年三月二八日、「政府・公団の話し合い攻撃粉碎、二期工事阻止、空港廃港、暫定開港粉碎四周年三・二八全国総決起集会」を現地の三里塚第一公園で開催した。集会には一万四三〇〇人(六五〇〇人)が結集、このなかには西独・フランクフルト空港拡張反対派や仏・ラルザックの軍事基地反対派の農民一三人も参加し国際的反戦闘争の連帯を訴えた。集会は「県がすすめる空港周辺農家振興策の成田用水にからまる公団用地貸し付けを断固拒否し、闘う農業・農民闘争」の展開を確認、デモに移った。千葉県警はこの日も九五〇〇人の機動隊員を動員し警戒にあたった。ついで七月四日、反対同盟は、成田空港建設計画閣議決定日(六六年七月四日)に合わせて三里塚第一公園で「七・四成田空港反対総決起集会」をひらいた。集会には九三〇〇人(四一〇〇人)が参加、「二期工事阻止、空港廃港をかちとるために一六年前の空港絶対反対の原点に立ち戻る」ことを確認した。集会後は県警機動隊九五〇〇人の警戒体制のなかをデモ、そして古タイヤ三〇〇〇本を燃やし、花火・バルーンを打ち上げ闘争勝利を誓った。

一六年にわたる三里塚空港反対闘争の過程で多くの脱落者がでた。八一年末、反対同盟の幹部数人が運輸省当局と秘密取引をおこなった問題で同盟内部は一時分裂状態におちいった。八一年二月九日、石橋反対同盟委員長代行、内田反対同盟行動隊長は反対同盟幹部会に、「話し合い拒否路線という同盟の基本路線を逸脱した」との自己批判書を提出、現職の辞任を申し出、受理された。翌一〇日拡大幹事会、一一日、三里塚第二公園で組織のたて直し報告集会を開催し、反対同盟は危機をのりきった。

反対同盟の間断のない廃港闘争とは別に、これまでと同じく二期工事着工阻止ゲリラ闘争も展開された。八二年三月一三日の未明から早朝にかけ茨城県の国鉄成田・鹿島線、総武本線の計七カ所でCTC(列車集中制御装置)のケーブルが切断されたり、送電線が焼かれ、三線合わせて列車二六三本が運休となり二五万人が直接影響を受けた事件、三月一六日午後の成田市空港公団土屋燃料基地西側県道でのワゴン車炎上事件などはその一例である。

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
